

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和4年5月12日（木）～令和4年5月12日（木） 13:00～18:00 【2日目は第1回臨時会のため不参加】			
視 察 先	自宅での■オンラインセミナーにて聴講 視聴サイトのURLから、Zoomをダウンロードのうえ開始しました。			
視 察 用 務	全国地方議会サミット 2022			
視察先対応者	ローカル・マニフェスト推進連盟 マニフェスト大賞実行委員会			
概要及び所見	<p>内容 基調講演 『チーム議会で取り組む「自己決定・自己責任」の地方自治』 早稲田大学院名誉教授 北川 正恭 氏</p> <p>特別講演 『一人一人の多様な幸せを実現する デジタル庁のミッション』 牧島 かれん デジタル大臣</p> <p>講演等 『住民自治と多様な議員で構成された活力ある議会』 江藤 俊昭 大正大学社会共生学部教授 寺沢 さゆり 長野県長野市議会 議長／全国市議会議長会副会長 伊波 篤 沖縄県読谷村議会 議長／全国町村議会議長会 理事</p> <p>セッション 『各地からオンライン登壇も！オンライン議会の展開事例』 千葉 茂明 月刊「ガバナンス」編集主幹／コーディネーター</p>			

清水 克士 滋賀県大津市議会 議会局長

「なぜオンラインが必要なのか—大津市議会の経験から」

岩崎 弘宜 茨城県取手市議会 事務局次長

「こんなこともできる！オンライン—取手市議会デモテックへの取り組みから」

実践紹介

「議会オンラインへの対応と市民とつながる・深まる議会改革」

中野 智基 愛知県知立市議会 議長

「市民とつながる—『議員と語ろう 議会報告会』オンライン」

松尾 徳晴 福岡県春日市議会 議長

米丸 貴浩 福岡県春日市議会議員／広報広聴委員長

▼講演・セッション

『多様な議員の一般質問を議会政策形成へ』

土山希美枝 法政大学法学部 教授

実践紹介

「一般質問検討会議から議会の政策形成へ」

西原 浩 北海道別海町議会 議長

「一般質問でまいたタネを市民と共有し議会の政策形成へつなげる」

青野 敏 北海道鷹栖町議会議員

片山 兵衛 北海道鷹栖町議会議員

コロナ禍で議会がどのように対応していったのか。そのあり方を検証する内容でした。コロナ禍で住民が大変だった中で、議会の2極化を指摘する意見があり、一方の極に右往左往して全部中止、傍聴も全部中止、一般質問も中止、専決処分を賛辞したりする状況があったのではないかと言われた。他方で、住民に寄り添って行政がアップアップしている中でしっかり住民の声を聞きながら、それを地域リーダーとして議会人として集約して執行機関に提言するとか、また情報提供ができた議会もあったと付け加えられた。要は、今までの議会の到達点があぶりだされた形になったとの言及があり、この間当初予定していない副産物があったとも言われた。その1つがオンラインの運営であり、委員会として住民の意見交換としてオンラインを使用することであった。もう1つはBCPで業務継続計画のバージョンをあげていく話があった。どちらにしても議会を止めずに継続的にやっていくことの応用編をどのように実践していったのかが今回のテーマの柱となった。

三次市議会も合併以降、様々な議会改革を行ってきており、私自身も恩恵を受けていると実感することが多く、先輩議員や議会事務局の取組や存在に感謝することが多い。コロナ禍で本市議会も今までのことは今までとして、これからの議会をどのように描いていくのかという必要性に迫られていると思う。各議会からの実践報告も行われ大変参考になる内容でした。個々の議員活動も大事だとは思いますが議会活動を工夫して活発化していくことが改めて必要だと感じた。

昨年、議員定数等調査特別委員会を行いその中で全世帯を対象にアンケートを行ったが、議員の活動が市民の皆さんに見えないことで、何やっているのかよくわからないといった声も多かった。このような意見からも、議員不要論ひいては議会不要論につながっていると思う。

市民の皆さんに活動が見え、市議会を身近なものとして感じてもらえるような取組を実践していくことが、他の議会の実践報告を視聴しながら改めて感じた。特に、福岡県春日市議会の広報広聴委員会を中心とする議会報告会・懇談会は本市の議会報告会・懇談会と類似するところがあり参考になる内容だった。とりわけ春日市議会の広報広聴委員会の感想の中で、ファシリテーターのスキルの向上が大事だという点が印象に残った。ファシリテーターの采配次第で活発な議論や意見交換になることが決まるという内容だった。また、議会報告会の意見交換会はあらかじめテーマを知らせていたということもあり、参加者の準備ができていたせいかスムーズな発言がみられた。時間をもてあますことなく充実した内容で終わることができたと報告があった。

令和3年度はコロナ禍ということもあり30名限定で初めてオンライン形式で議会報告会や・意見交換会を実施したと述べられた。オンライン上でグループ分けを行い、若い世代も参加ができるようにと従来の平日の18時から土曜日の午前中に変更し、後日、録画で配信するようにして当日の参加が難しい方へ配慮も行ったと聞いた。

三次市議会も、議会報告会・懇談会も対面方式もあれば、新たにオンライン方式も検討していくことも必要かと思うようになった。前述したファシリテーターのスキルの向上については、委員会の委員長の議事運営によく似ているのではないかと思った。最終的な結論を導くために到達点を確認して議事を整理しながら行っていく。大事なのはどのようにして結論を導くのがポイントになると感じた。そのためには、私自身もファシリテーターのスキルを習得していくことが求められていると考えるに至った。

